

【4AM-80】広帯域分析サウンドスペクトログラフの特徴はどれか。

- a. 時間分解能が高い。
 - b. 周波数分解能が高い。
 - c. 声の高さの時間変化パターンの分析に適する。
 - d. 広い周波数範囲の音声分析に適する。
 - e. ホルマント周波数（の時間変化）の分析に適する。
1. a、b 2. a、e 3. b、c 4. c、d 5. d、e

【7AM-72】広帯域サウンドスペクトログラフでの測定に適さないのはどれか。

- 1. 分節音の持続時間
- 2. 母音の無声化
- 3. ホルマント周波数（の時間変化）
- 4. 子音の破裂の有無
- 5. イントネーション

【9AM-76】サウンドスペクトログラフの説明で誤っているのはどれか。

- 1. ホルマントの動きを観察するのは広帯域分析が適している。
- 2. 単音のセグメント境界を測定するには広帯域分析が適している。
- 3. 広帯域分析は周波数分解能を犠牲にしている。
- 4. 倍音構造の動きを測定するには狭帯域分析が適している。
- 5. VOTの測定には狭帯域分析が適している。

【13PM-141】広帯域サウンドスペクトログラムについて正しいのはどれか。

- a. 数ミリ秒の短い分析窓を用いる。
 - b. 周波数分解能がよい。
 - c. ホルマント周波数の測定に用いる。
 - d. 倍音の時間変化の様子が観察できる。
 - e. 鼻音区間の長さの測定に適している。
1. a、b 2. a、e 3. b、c 4. c、d 5. d、e

【19AM-41】狭帯域サウンドスペクトログラムでの観察に適しているのはどれか。

- 1. 母音のホルマント（フォルマント）
- 2. 音節長
- 3. 摩擦性
- 4. 発話速度
- 5. イントネーション